

生徒が考える「豊浦の未来」

豊浦中学校生徒と町長との意見交換会



▲町長が質問を投げかけ、それに答える生徒。

5月9・10日に、平成30年度から始まる第6次豊浦町総合計画の策定に向け、豊浦中学校2・3年の生徒と町長による意見交換会が豊浦中学校で行われました。

3月に役場若手職員との意見交換でまとめた案をもとに、生徒と町長の意見交換が進められ、お互いの考えを並べ豊浦町の未来を考えました。

意見交換後、生徒と町長が給食を一緒に食べながら交流も深めました。

認知症でも暮らしやすい町に

「とようら認知症の人を支える家族の会」の設立



▲日常生活における介護寸劇も行われました。

4月29日、「とようら認知症の人を支える家族の会」の設立総会が、社会館で行われました。

発起人代表の牧野康則さんは、「認知症は、誰でも発症する可能性があるのに、なぜか特殊扱いされる。本人と家族を支える仕組みを作り、認知症になっても安心して暮らせる町にしていきたい。」とあいさつしました。

総会後は、地域交流センターとわにーにおいて、「今、すぐ始めよう認知症の予防」として、社会福祉法人幸清会の大久保幸積理事長の記念講演や介護寸劇が行われました。

花植えをとおして人権を知る

豊浦小学校3・4年生「人権の花」運動



▲小学校前の花壇を多くの花で彩ります。

5月24日、豊浦小学校で「人権の花」贈呈式および3・4年生の児童による花の植栽が行われました。

児童は、荒井常昭人権擁護委員から「花を植えることで周りの人に笑顔を届ける」と人を思いやる気持ちの大切さを教わり、西いぶり人権啓発活動ネットワーク協議会から贈呈されたマリーゴールドやダリアなどの花1,040株を丁寧に植えていました。

児童代表あいさつで道林るなさん（4年）は、「これから大事に育てます。」とお礼の言葉を述べていました。

太陽光発電所の建設へ

クリーンで安全なエネルギーを



▲参加者全員で、工事の安全を祈願しました。

4月27日、豊泉に建設する太陽光発電「サ・ム・ラ・イ・豊浦ソーラーパーク」の地鎮祭が豊浦神社で行われました。

事業主は、福島市のサ・ム・ラ・イ・エナジーが町内に設立した合同会社で、豊泉の丘陵地に建設し、総発電量は、年間1,190万キロワットで、平成31年3月に完成予定です。

町長は「今回の事業は再生可能エネルギー事業の先駆けとなる。町としても連携協力していきたい」と話しました。